

国際ボランティア学会 ニュースレター NO. 21

2014 年 11 月 25 日
国際ボランティア学会事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2
大阪大学大学院人間科学研究科
人間開発学講座内
Tel & Fax : 06-6879-8064
E-mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

1. 第 16 回大会へのお誘い
2. 第 16 回大会の概要
3. 第 15 回大会の報告
4. 第 16 回隅谷三喜男賞および第 2 回村井吉敬賞募集について
5. 2013 年度の会計報告
6. 会費納入のお願い
7. 『ボランティア学研究』編集委員会からのお知らせ

1. 第 16 回大会へのお誘い

国際ボランティア学会会長 内海成治

来年 2015 年は、阪神淡路大震災から 20 年である。そして今年（2014 年）は中越地震 10 年の節目の年である。阪神も中越も地震の記憶は消えることはなく、元に戻ることはないのであるが、それぞれに新しい街づくり村づくりが行われている。テレビニュースでは山古志村の米つくりの様子が紹介されていた。一方、東日本大震災は来年で 4 年目になるが、その復興は困難を極めている。さらに原発事故の収束は遠い未来のことである。私は震災 1 か月後に訪れた陸前高田や気仙沼の様子や人々のお話が、時にまざまざとよみがえり目頭が熱くなる。

ボランティアの在り様もこの 3 つの大災害を契機に変わってきた。阪神や中越の支援やボランティアの記録はたくさんあり、東日本の記録も数多く出版されている。そして、この 3 つの災害後のボランティア活動を見ると、ボランティアが市民や若者に身近なものになってきていることが見て取れる。

私の身近なところでは、多くの若者が日常的にボランティア活動を継続していることを感じる。私は京都の女子大学に勤務しているが、ゼミの学生が、「先週は東北に行ってきました」と当たり前のように報告する。また、卒業論文でも「東日本大震災が教師や子どもにどのような影響を与えたのか」、「東日本震災後の学校の防災教育への取り組み」といったテーマで現地でのフィールドワークを基に取り組んでいる。ボランティアは特別なことではなく、当たり前に行い、考えるものとなって来ていると感ずるのである。

今年の夏休みに、ケニアとアメリカで若い研究者と共に、ソマリア難民のアメリカへの第三国定住の調査を行った。予備調査の段階で大したことはできなかったが、いくつか心に残ることがあった。一つは、アメリカがユダヤ人やベトナム難民の受け入れ以来、難民の再定住に長い歴を持っていることである。これには政府の方針と受け入れを担当する NGO の成長が相まって可能になっていることである。二つ目は、難民再定住には

連邦政府や州政府の資金的・制度的支援があるものの、個々の家族の定住はNGOと多数のボランティアの存在なしにはできないということである。

難民再定住の公的資金（一人当たり1750ドル）による活動期間は90日であり、その後はボランティアな活動によらざるを得ないのである。多くはキリスト教の教会が中心となっているボランティア組織であるが、こうした活動には改めて心を動かされた。なぜならソマリアへのアメリカの思いは複雑であり、またイスラムの人々への思いも簡単ではないからである。そうした中で献身的なボランティア活動が全米各地で行われており、それによって多くの難民が新しい生活を始めているのである。

最近の日本の若者のボランティアへの取り組みを見ていると、日本の社会にも本格的にボランティアが根付いていることを感じている。こうした動きを学校や社会で制度的・資金的に支えていくシステムの必要性を強く感ずるのである。

2. 第16回大会の概要

2014年度第16回大会は、現会長の所属先である京都女子大学で開催されます。同大学は1899年（明治32年）に設立され、「自他の対立を超え、ともに生き、ともに育てられているという、あらゆる命あるものの平等を自覚する」という教育理念の下、今日まで発展してきました。

今回の大会では、本教育理念に沿うように命の尊厳と子どもの成長を考えられる機会として、以下の2つのシンポジウムを企画しています。

- ① 「ポストコンフリクト支援のこれまでとこれから」
- ② 「子どもの健やかな成長をめざしてー国際ボランティアのフィールド活動ー」

シンポジウム①では、経験豊富なパネリストの方々に、これまでのご知見を共有いただくとともに、今後の支援の在り方について活発に議論されることが期待されます。シンポジウム②は、ご活躍の若手実践家を中心にご登壇いただき、フィールドの最前線から本学会に新しい風を吹きこんでもらいます。また、発表者にとっても本学会への参加を通じて、研究を身近に感じていただき、実践と研究の交流を深めることが出来ればと願っています。

今大会は前大会に引き続き、学生会員および当日参加の非会員は無料とします。この機会に、ご関心をお持ちの多くの皆様をお誘い合わせの上、ご参加下さい。

早春の京都で、熱烈歓迎させていただきます！

大会実行委員会事務局長
大阪大学 川口 純

【日時】2015年2月28日（土）

【会場】京都女子大学

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

アクセス方法：<http://www.kyoto-wu.ac.jp/access/>

JR 京都駅八条口から

プリンセスラインバスで約 10 分、「京都女子大学前」で下車。

阪急「河原町」駅から

・2 番出口から、河原町通を南へ約 80m、プリンセスラインバスで約 15 分、「京都女子大学前」で下車。

・6 番出口から、市バス 207 系統で約 15 分、「東山七条」で下車し、東へ徒歩約 5 分。

京阪「七条」駅から

東へ徒歩約 15 分。

【大会実行委員長】内海成治

【テーマ】新しいボランティアの形

【大会スケジュール概要：予定】

10:00-12:00 分科会（口頭発表）

12:00-13:00 昼食休憩/ 理事会

13:00-13:40 総会

14:00-15:45 シンポジウム①

16:00-17:45 シンポジウム②

18:30-20:30 懇親会

<シンポジウム>

1. 「ポストコンフリクト支援のこれまでとこれから」

ファシリテーター：内海成治（京都女子大学教授）

パネリスト：

- ・三宅 隆史（SVA）
- ・中原 正孝（JICA）
- ・宮原 信孝（久留米大学）
- ・桑名 恵（立命館大学）

2. 「子どもの健やかな成長をめざして－国際ボランティアのフィールド活動－」

ファシリテーター：中村安秀（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

高橋真央（甲南女子大学文学部准教授）

パネリスト：

- | | |
|--------|------------------------------|
| 「障がい児」 | 川口 純（大阪大学大学院人間科学研究科） |
| 「母子手帳」 | 大月詩織（看護師・東京大学医学系研究科） |
| 「緊急支援」 | 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）スタッフ |
| 「栄養改善」 | 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン スタッフ |

<発表申込期間>

- ・発表申し込み期間は 2014 年 11 月 20 日（木）から 12 月 20 日（土） までです（締め切り厳守）。
- ・応募される方は、国際ボランティア学会のホームページより発表申込書をダウンロードし、メールによるファイル添付で第 16 回大会実行委員会専用アドレス vol socio16@gmail.com まで送付してください。

- ・上記の申込書によるエントリーにもとづき、1月初旬の大会実行委員会で審査のうえ、応募者にお知らせします。
- ・報告要旨集の原稿は、メールによるファイル添付で第16回大会実行委員会専用アドレス vol socio16@gmail.com に送付してください。締め切りは 2015年1月25日(日) 必着です。

<原稿の作成方法>

- ・原稿は、Windows版もしくはMac版の「ワード」文書の形式に限ります。
- ・1題につきA4用紙で1枚とし、余白は上下左右25mm、設定は40字×40行、1行目に演題名(タイトル)、2行目に発表者氏名(所属名)と共同発表者(所属名)、3行目にキーワード5つ以内、5行目から本文を記入してください。

<特定テーマ研究・自由研究発表>

発表時間10分+質疑応答5分の計15分とし、口頭で発表してください。

<ポスター発表>

発表資料を模造紙1枚分(790×1,090mm)にまとめて掲示し、参加者に対して適宜説明や質疑応答をしてください。

<参加申し込みについて>

- ・会場、資料の準備の都合により、参加される場合は、メールにて(氏名、所属、連絡先をご記入いただき、第16回大会実行委員会 vol socio16@gmail.com 宛て)、2015年2月16日(月)までにお申し込みください。
- ・本大会は、分科会、シンポジウム共に、学会員以外にも公開いたします。一般会員は大会参加費3,000円(事前登録者2,000円)／懇親会費3,000円、学生会員は大会参加費無料／懇親会費1,000円を予定しております。
- ・宿泊については、各自でご手配をよろしくお願ひします。

【問合せ先】

国際ボランティア学会第16回大会実行委員会

メール：vol socio16@gmail.com

FAX：06-6879-8064

郵送：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 人間開発学講座内

国際ボランティア学会第16回大会実行委員会



京都女子学園のシンボル、建学記念館(錦華殿)

3. 第 15 回大会の報告

第 15 回大会は、2014 年 3 月 1 日、早稲田奉仕園にて、「震災から 3 年～被災地の復興とこれからの日本」をテーマとして 1 日プログラムの形で行われました。午前の研究発表・分科会に続く、午後の公開シンポジウムの主な内容は下記の通りです。

<敬称・所属先・役職名略>

●シンポジウム 1「復興後のまちづくり」ファシリテーター：中村安秀

4 名のパネリスト：日下部尚徳「バングラデシュのサイクロンにみる貧困と被災の連鎖」、野際紗綾子「障がい者と災害復興：課題と展望」、岡本翔馬「陸前高田の復興とまちづくり」、長純一「仮設住宅支援から地域包括ケア～システム構築への取り組み」

バングラデシュ（海外）と東日本大震災（国内）の災害を事例に、被災者支援から「コミュニティの復興・再生」に向けた諸課題について、国際協力 NGO・被災地に根ざす NPO・地域医療の角度から考察しました。

●シンポジウム 2「今、改めて考える～新しい公共」ファシリテーター：内海成治

5 名のパネリスト：金子郁容、松井孝治、細野豪志、鈴木寛、大西健丞

前民主党政権が目指した市民が主体となって実現する「新しい公共」。その「新しい公共」政策立案の中核メンバーが、それぞれの立場から、政策が目指したものと政策を巡る諸課題を検証し、3.11 後の市民社会や取り組みを踏まえて、今後の方向性について語り合いました。

両シンポジウムは、“3.11 後の日本社会の展望”を多角的多元的に考察する場として、大変有益かつ時機を得たものとなりました。全ての協力者に深く感謝申し上げます。

閉会式では、第 14 回隅谷三喜男賞に加えて第 1 回村井吉敬賞、優秀発表賞の授賞式が行われました。第 1 回村井賞は、2013 年 3 月にご逝去された村井先生（上智大学名誉教授）を記念し、優れたボランティアの実践を称えるために創設され、授賞式には村井先生のパートナーである内海愛子先生もご列席下さいました。感謝です。

大会後の懇親会は、村井先生を偲ぶ会を兼ねて行われ、内海愛子先生から「村井は、一人ひとりの小さな声に耳を傾け、アジアをとことん歩き、共に生きた人でした」とのご挨拶を頂きました。また村井先生を良く知る方々からのコメントも示唆に富み、心温まる良き交わりの夕べとなりました。

今次大会にご参加いただきました皆様、および多大なるご協力を賜った特活 Peace Winds Japan、公社 Civic Force の皆様に心からのお礼を申し上げます。

第 15 回大会実行委員会
大江 浩（日本キリスト教海外医療協力会 事務局長）

4. 第16回隅谷三喜男賞および第2回村井吉敬賞募集について

今大会でも、前大会に引き続き、隅谷三喜男賞と村井吉敬賞を設けています。応募様式などは自由です。候補についての情報提供、自薦・他薦の応募をお願いできれば幸いです。なお、応募締め切り期日は2014年12月27日(土)です。

学会賞選考規定

1. 学会賞の設置

国際ボランティア学会の賞として隅谷三喜男賞、村井吉敬賞を設ける。

2. 主旨

(1) 隅谷三喜男賞は、初代会長隅谷三喜男博士を記念し、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

(2) 村井吉敬賞は、学会の発展に多大な貢献のあった村井吉敬教授を記念し、実践を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

3. 対象者

隅谷三喜男賞、村井吉敬賞併せて毎年度原則、2名(個人あるいは団体)

4. 選考対象

(1) 隅谷三喜男賞：著作・論文(学会誌掲載論文、およびボランティア学に関する著書・論文)賞の対象となる著作・論文等を、自薦あるいは他薦により、本学会賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

(2) 村井吉敬賞：実践賞の対象となる活動記録を、自薦あるいは他薦により、本学会賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

5. 賞選考委員会

本学会理事の互選による5名以内で構成する。選考委員の任期は3年とし、再任を妨げない。選考委員長は選考委員の互選とする。選考委員会は必要に応じて会員の協力を求めることができる。

6. 選考手順

賞選考委員会は選考を当該年の総会以前におこない、理事会の決議を経て、大会および総会において発表する。

連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 国際ボランティア学会事務局

FAX: 06-6879-8064

Mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

5. 2013 年度の会計報告

2013 年度の会計報告は以下の通りです。

2013 年度国際ボランティア学会
収支決算表
(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
前年度より繰越	2,500,000	1,405,616	-1,094,384	
年会費	540,000	871,000	331,000	
学会誌販売	50,000	152,425	102,425	
寄付	25,000	10,000	-15,000	
雑収入	5,000	16,444	11,444	銀行利子、別刷り
合計	3,120,000	2,455,485	-664,515	

支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差額	備考
大会開催費	300,000	300,000	0	
印刷費	1,000,000	493,500	-506,500	14 号印刷
賃金	100,000	60,000	-40,000	
通信・運搬費	140,000	60,672	-79,328	
物品購入費	10,000	14,553	4,553	封筒、賞状等
その他	250,000	5,197	-244,803	弔電、手数料等
次年度へ繰越	1,320,000	1,521,563	201,563	現時点での残額
合計	3,120,000	2,455,485		

・差額は、(決算) - (予算) で計算

6. 会費納入のお願い

学会運営は、基本的に会員皆様からの会費で支えられております。是非とも、学会の活動にご協力をお願いいたします。また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

2014 年度分の会費は以下の通りです。

[年会費] 一般会員：5,000 円／学生会員：2,000 円／法人会員：10,000 円
同封の振込用紙をご使用のうえ、お振り込みください（未納の方へのみ送付）。

7. 『ボランティア学研究』編集委員会からのお知らせ

『ボランティア学研究』第15号では(2015年2月下旬刊行見込)、投稿論文および第15回大会報告に加え、「サービス・ラーニング」の特集を組みますのでご期待ください。また、第16号への投稿論文等の締め切りは、2015年5月末の予定ですので、皆さまからの原稿をお待ちしています。投稿原稿の種類として、従来の「論文」「研究ノート」「フィールドレポート」「書評」に加え、「調査報告」を新たに設けました。研究論文だけではなく、NGO等での実践活動を踏まえた論考や報告を積極的に取り上げていきます。学会誌は会員各位からの投稿により成り立っており、これまでのところ、必ずしも潤沢な投稿があるわけではありません。最新の執筆要領等をご確認の上、ふるってご応募いただけますと幸いです。

また、『ボランティア学研究』のバックナンバーは、会員以外の方でも、購入することが可能ですので、必要な場合は学会事務局までお知らせください。最新の第14号(2014年2月刊行)では、「外国人生徒のキャリア形成とボランティア」の特集を組んでいます。

学会事務局連絡先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 人間開発学講座内
国際ボランティア学会事務局

Tel & Fax: 06-6879-8064

Email: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp